

園長だより「言葉のちから」 第28号

人は色々な手段で自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを受け取ったりします。その時の表情であったり、態度であったり、手紙やメールであったり……。でも、当然のことですが日常的には会話によるコミュニケーションによるものが多いように思います。

言霊（ことだま）という言葉があります。辞書で調べると「昔、言葉の中に宿っていると考えられた不思議な力」とあります。簡単に言えば言葉には力があるということです。皆さんもご自身を支えてくれた言葉というものがいくつかあるのではありませんか。

お子さんを育てていく中で皆さんの言葉かけは極めて重要です。皆さんの言葉かけ一つでお子さんの成長度合いが大きく変わってくるのです。

言葉かけで大切なことは否定語をできるだけ使わないということです。昔の学校のきまりの一つに「廊下を走らない」がありました。廊下にもポスターとして掲示してあったりしましたよね。でも、今はどこの学校も「廊下は歩きましょう」となっています。子ども達に促している中身は全く同じですが人間の脳の受け取り方は全く違います。脳科学の研究で人間の脳は否定語を理解しにくいということも証明されているそうです。

竜宮城の乙姫様に「玉手箱を開けてはいけません」と言われた浦島太郎はそれを我慢できずに開き、一気におじいさんになってしまいます。つうに「機を織っている時は決して見ないでね」と言われたのに与ひょうはその約束を守れずに障子を開け、妻が鶴だったということを知ります。浦島太郎も与ひょうもあれだけあかんと言われたのに何をやっとなんというお話です。つまり、昔から否定語は理解しにくい言葉かけだということです。

一度、自分自身がどれくらいお子さんに対して否定語を使っているか考えてみてください。どうでしょうか。思っていた以上にお子さんに対して否定語をたくさん使っているのではありませんか。私自身がそうでした。高学年の担任をすることが多かったのですが、若い頃は学級の子ども達に「〇〇したらあかんよ」「〇〇しません」というような否定語を使うことが多かったように思います。自分の経験値が低く、先生としてのスキルに自信がなかったのかもしれませんが。担任として失敗することを恐れていたとも考えられます。でも、ある時期からできるだけ否定語を使わないように意識するようになりました。「こうしてみよう」「こんなことをやってみよう」「もっと楽しくなるやり方をみんなで考えよう」そうすることで、以前に比べて子ども達がいきいきと前向きに活動するようになりました。校長先生になってからもこれは続けました。否定語を使わず、できるだけたくさん子ども達の良いところを見つけては具体的にほめるようにしていました。

保護者の皆さんもお子さんに伝えたいことややってほしいことは否定語を使わず、できるだけ肯定語を使って言葉かけをしていただければと思います。否定されるよりも「こうしてみよう」と言われるほうがお子さんも前向きになれますし、皆さん自身も気持ちがいいものです。